

強い選手育てたい

よしだ えいいち
吉田 栄一さん(72)
キッズテニス指導者 スクール

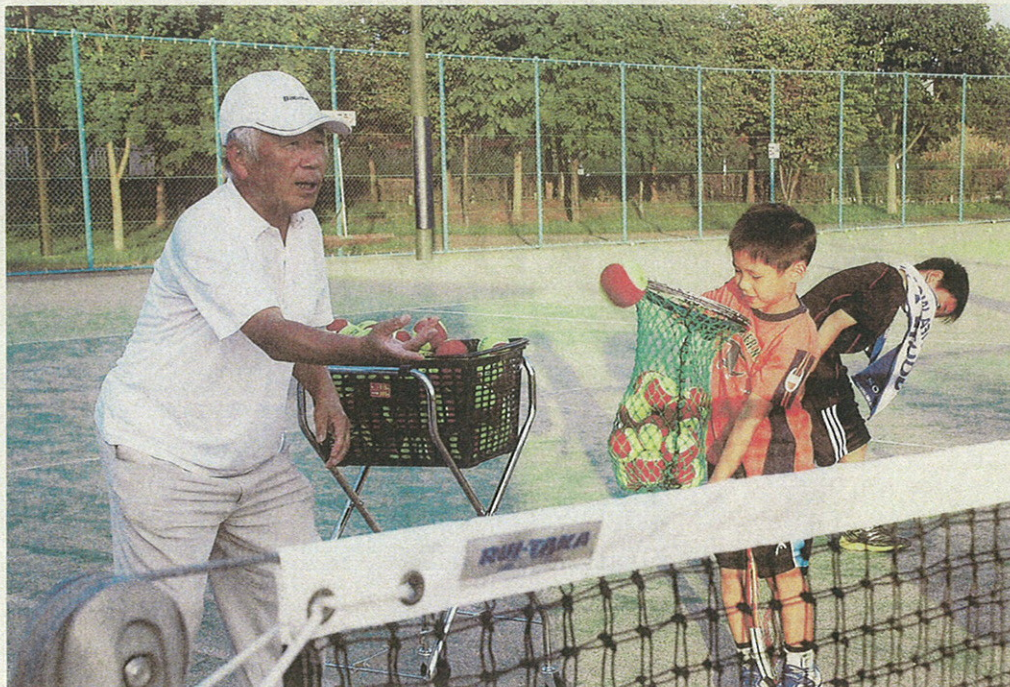
「いいね、上手だよ」。

函館市の昭和公園テニスコートに、吉田さんの声が響いた。幼稚園児と小学生が通うキッズテニスクールは、「函館で強いプレーヤーを育てたい」と高校で約20年間、テニス部顧問を務めた吉田さんが2001年の退職を機に開校。02年から約1年間指導した沢柳璃子選手(18)は、今年11月にプロデビューを果たした。

「先生に会えたから世界に通用するプロになるという夢が持てた」と、沢柳さんは吉田さんの指導に今でも感謝している。

吉田さんは高校教諭として南茅部高などを経て1979年、母校の函館東高(現市立函館高)に赴任。大学時代にテニスを楽しんでいたことと、スポーツ好きの明るい性格が買われ、テニス部顧問になった。軟式野球部や山岳部も掛け持ちし、テニスの打ち込み練習後には、スパイクに履き替えて野球部の練習にも付き合った。

同校のテニスコートが整備し直された84年からは、テニス部を中心に指導。早朝と放課後合わせて5時間も練習した。日曜日も休みなく生徒を鍛えた。「強くなるには練習しかない。1回戦で負けるなら家で寝ろ」という思いでしたね」と豪快に笑う。テニスの指導法は独学で身につけたとい



生徒の名前を呼びかけながら、キッズスクールで丁寧な指導を行う吉田さん(9月20日)

豊富な経験 未来のプロへ

う。努力が実って99年には吉田さんが指導した同校女子団体チームが、全国選抜大会に出場した。

退職した01年、テニス愛好者の裾野を広げたいと、昭和公園内のコートを使って小学生対象のキッズスクールの開校したもの、03年にNPO法人函館テニス倶楽部の子ども担当コーチとなってキッズスクールを休止。ところが、60人近く在籍したテニス倶楽部の子どもたちが年々減り続け、07年には半分ほどの25人までに減った。これを機に金堀町の屋内コートを拠点として「ドリームジュニアテニスクラブ」を設立。さらに今年5月、昭和公園でのキッズスクールも再開し、10月末まで指導した。

昭和公園のスクールは、生徒の父母たちがボール拾いなどを支えている。「お母さんたちの存在は欠かせないよ」と吉田さん。70歳を超えても頑張れる原動力は子どもたちの笑顔だという。「璃子のような強い選手を送り出したい」という思いも強い。来年も春から秋までキッズスクールを開き、ジュニアテニスクラブと掛け持ちで指導する。体が動く限り、テニス好きの子どもの相手を続けるつもりだ。(袖山香織)

ここに生きて

カレンダーの提供と当日の来場を呼びかける函館白百合学園中学高校福祉局員



榎本武揚像 完成祝う

函館 梁川公園で除幕式

函館・五稜郭を拠点に旧幕府軍として箱館戦争を戦った榎本武揚(1833-1908)の胸像の除幕式が9日、梁川公園で行われ、

